

音楽科教育 理論研修会 終了報告

<p>テーマ</p>	<p>豊かな感性に ときめく心を ～互いに学び合い、高め合う多様な学習活動の在り方～ (コロナ禍での授業・評価のあり方)</p>								
<p>日時</p>	<p>令和 4年 1月 14日(金)</p>								
<p>会場</p>	<p>参加者各校で Google Meet による研修</p>								
<p>講師</p>	<p>高倉 弘光氏 (肩書:)筑波大学附属小学校 教諭</p>								
<p>参加者</p>	<p>28 名</p>								
<p>研修会 の様子</p>	<div data-bbox="264 831 866 1093"> <p>【音楽科の場合、順序に注意】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①知識・技能</td> <td>ア 思考力・判断力・表現力</td> </tr> <tr> <td>②思考力・判断力・表現力</td> <td>イ 知識</td> </tr> <tr> <td>③学びに向かう力・人間性</td> <td>ウ 技能</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="890 815 1505 1032"> <p>コロナ禍、音楽の授業で困っていることは何かを参加者全員で確認した。歌うこと、リコーダーを演奏することに制限があり、評価が難しいと考えている参加者が多かった。その後、新学習指導要領の目標を確認し、現状では、思考力・判断力にシフトしていてもかまわないのではないかというお話だった。</p> </div> <div data-bbox="300 1111 826 1469"> <p>高倉先生の授業の様子</p> </div> <div data-bbox="890 1099 1505 1458"> <p>3年生「春の小川」・「富士山」、4年生「とんび」・「ソラン節」の授業実践を紹介していただいた。 「～しましょう。」と教えることが主になる指示ではなく、子ども達に気づかせる言葉のかけ方の工夫、一人一人がどう表現したいのかという思いをもつ大切さや楽しさを実感できる授業づくり、一度学習したことが次の教材や次の学年に繋がっていく学びの持続性等について、それぞれの教材でどのように子どもと対話し、ねらいを達成していくか具体的に考えることができた。</p> </div> <div data-bbox="264 1491 839 1753"> <p>ワークシートの紹介</p> </div> <div data-bbox="890 1491 1505 1709"> <p>評価については、思考・判断はワークシート等に行ったこと、発表したことから見取るが、授業の中でやったことを問うことが大切であるということだった。技能については、歌や演奏を聞き、聞きながら声をかけていくこと、知識は学習したことを点数化することを行っているということだった。</p> </div> <div data-bbox="411 1776 730 2033"> <p>音楽授業ラボラトリー研究会</p> </div> <div data-bbox="890 1771 1505 1989"> <p>「指導要領が変わっても、技術を重視する授業が多いのが現状で、上手に歌う、上手に演奏することにこだわっていると、音楽という教科は必要ないということに繋がっていく。これからは、創る、表現するために思考力を使うということが音楽という教科に求められているのではないか。」というお話が印象的だった。</p> </div>	目標	内容	①知識・技能	ア 思考力・判断力・表現力	②思考力・判断力・表現力	イ 知識	③学びに向かう力・人間性	ウ 技能
目標	内容								
①知識・技能	ア 思考力・判断力・表現力								
②思考力・判断力・表現力	イ 知識								
③学びに向かう力・人間性	ウ 技能								